

野路篠原 守山の寅のかた也、鏡山の麓也、玉葉旅のうたに、安嘉門院四條

打時雨古郷おもふ袖ぬれて行きき遠き野路の篠原

三上山 三上の嶽と云、此山の麓を北へ流たる川を夜須川といふ也、攝政前太政大臣

はかりなる三上の山をめにかけて幾瀬渡りぬやす川の波

守山 山はなし、里の名也、京より七里也、野路より北也、東國への道なり、參議雅經のうた、

此比は月こそいたくもる山の下葉のこらぬ木がらしのかせ

守山の宿を過ては、やす川を渡る也、篠原といふ宿、此次に有、鏡山の麓也、

鏡山 原より北也、守山より東北のかた也、篠原は此山の西のふもと也、

鏡山いざ立よりて見てゆかん年へぬる身は老やまぬると

月出島 鏡山より西也、海士の釣舟などよめり、

老曾森 鏡の宿より丑寅のかたなり、間近し、後拾遺夏のうた、

東路の思出にせん郭公老曾の森の夜半の一聲

蒲生野 宇禰野

かまふの、玉のお山に住鶴の千年は君が御代のかすなり

近江路を朝立くれば宇禰の、にたつぞ鳴成明ぬこの夜は

鳥籠山 犬上の郡也、犬上山と云也、老曾より北也、いさや川とこの山の麓也、

犬上のとこの山なるいさや川いさとこたへて我名もらすな

いさや川は、東より西へ流たり、ちいさき流也、いさ、川共、名取川共云也、

小野の宿 とこの山より十町ばかり北のかた也、此所をあさぢが小野ともいふ也、

柏原 小野の宿より北也、宿あり、京より十八里也、